

立教大学アジア地域研究所 2013 年度 第 2 回公開講演会

海境のアジア、陸境のアジア

－ 中国とインドの統合秩序 －

日時：2013年 10月 19日（土）15：00～17：00

場所：立教大学 池袋キャンパス 14号館 D 301教室

南アジア史、南アジア環境史、アジア文化交流史、アジア移民史の研究に基づき、インドと中国の生態系・歴史文明体系の特質を、中国の「万里長城」は巨大な壁であったという観点から比較し、仮説的に考察する。



講師：重松 伸司（追手門学院大学 名誉教授）

1942 年、大阪府生れ。1966 年、京都大学文学部史学科東洋史学卒業、1971 年、京都大学文学研究科東洋史学修士課程修了。ケンブリッジ大学南アジア研究センター客員研究員、名古屋大学国際開発研究科教授などを経て、2007 年に追手門学院大学教授、2013 年に名誉教授。京都大学博士（文学）。専門分野は南アジア史学、南アジア－東南アジア交流史。著書に『ムガル帝国誌／ヴィジャヤナガル王国誌』（1984 年、岩波書店）、『カーストの民、ヒンドゥーの習俗と儀礼』（1988 年、平凡社）、『マドラス物語、海道のインド文化誌』（1993 年、中央公論社）、『インドを知るための 50 章』（2003 年、編著、明石書店）『マラッカ海峡のコスモポリス、ペナン』（2012 年、大学教育出版）など。

申込・参加費 不要

お問合せ：立教大学アジア地域研究所

電話：03-3985-2581（月・火・木 10：00～17：00） e-mail：ajiken@rikkyo.ac.jp

主 催：立教大学アジア地域研究所

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21世紀海域学の創成」プロジェクト 公開シンポジウム

海域学の展望を拓く —過去から現在、そして未来へ—

日 時：2013年12月22日（日）14:00～17:30

場 所：立教大学池袋キャンパス 11号館 A203教室

かつて「南洋」と呼ばれた南シナ海・インド洋・太平洋については、従来の「陸」を中心とした世界認識に、「海」を軸に検討を加えるという動きがある。本研究所が進める研究プロジェクト「21世紀海域学の創成」の企画として、今回は歴史学と政治学の側面から過去と現在とを結びつける。

●開会挨拶 14:00～14:05

豊田 由貴夫（本学観光学部教授、本学図書館長）

●報 告 14:05～16:00

上田 信（本学文学部教授、「21世紀海域学の創成」プロジェクト研究代表）

「21世紀海域学の課題」

太田 淳（広島大学大学院准教授）

「貿易、戦争、移民：18-19世紀マレー海域の海賊」

堀本 武功（京都大学大学院特任教授）

「現代インド洋を考える」

休 憩

●パネルディスカッション 16:15～17:25

太田 淳（広島大学大学院准教授）

堀本 武功（京都大学大学院特任教授）

弘末 雅士（本学文学部教授）

竹中 千春（本学法学部教授）

上田 信（本学文学部教授、「21世紀海域学の創成」プロジェクト研究代表）

●閉会挨拶 17:25～17:30

上田 信（本学文学部教授、「21世紀海域学の創成」プロジェクト研究代表）

申込・参加費 不要

お問合せ：立教大学アジア地域研究所「21世紀海域学の創成」プロジェクト担当 園川
TEL.FAX：03-3985-4492 / e-mail：kaikigaku@rikkyo.ac.jp

Dà Lạt - Et la carte créa la ville...



Dà Lạt - Bản đồ sáng lập thành phố...

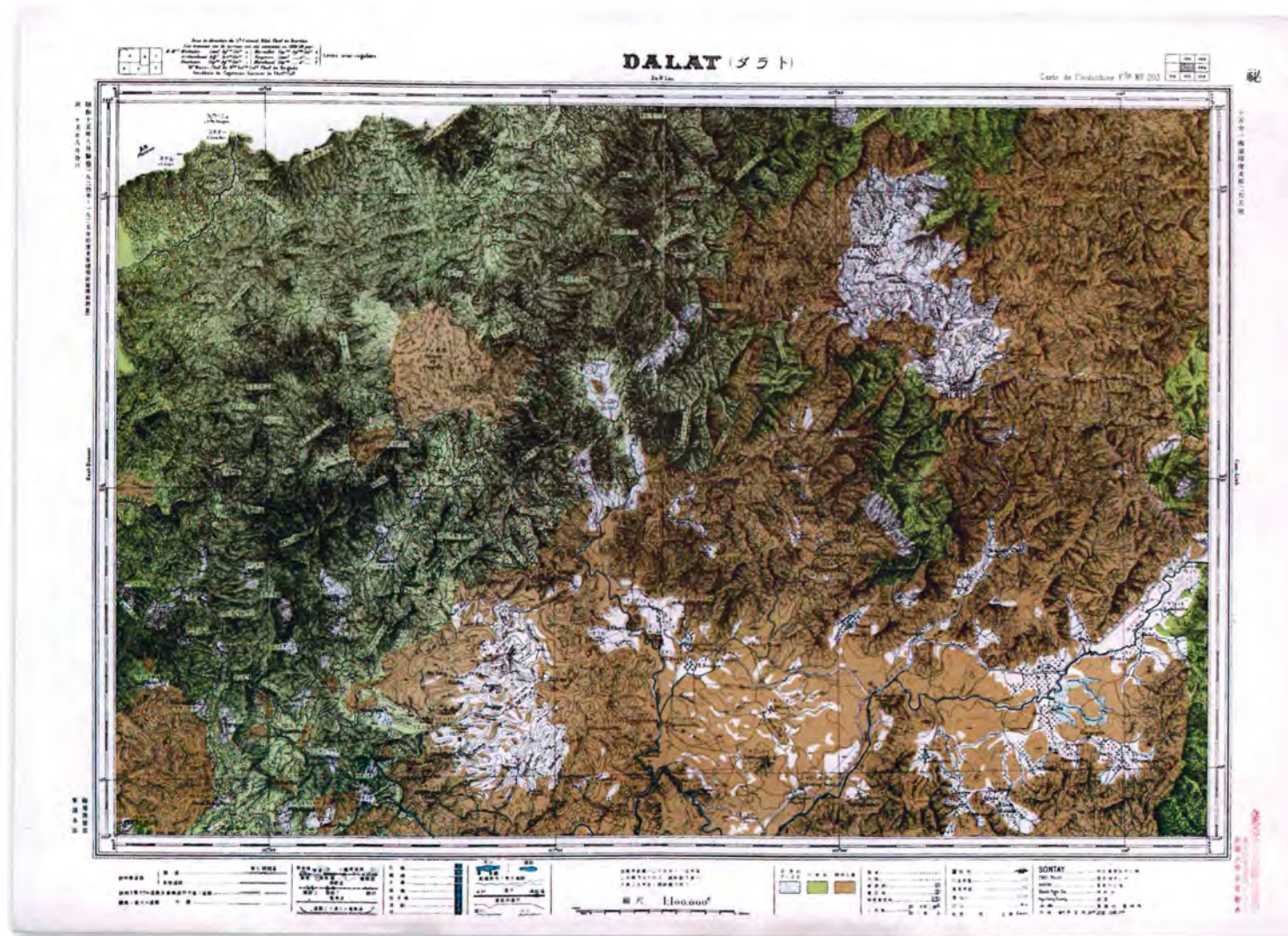
Dà Lạt - And the map created the city...



NHÀ XUẤT BẢN TRẺ HUẾ



ÉCOLE FRANÇAISE
D'EXTRÊME-ORIENT



■ Cartes extérieures au territoire japonais réalisées par l'Armée japonaise : n°203 / Indochine française / 1:100000 / Đà Lạt / 1940 [CAAS]
 Bản đồ của khu vực bên ngoài lãnh thổ Nhật Bản do Quân đội Nhật Bản trước đây lập: số 203 / Đông Dương thuộc Pháp / 1:100000 / Đà Lạt / 1940
Maps of the Areas outside the Japanese Territory Prepared by Former Japanese Army: No. 203 / French Indochina / 1:100000 / Đà Lạt / 1940

L'armée japonaise présente en Indochine à partir de 1941 porta une attention particulière à Đà Lạt et sa région. Comme le prouvent ces deux cartes ci-dessus et p. 149, pour eux également elles présentaient des avantages géostratégiques et apportaient le confort d'une station d'altitude.

Quân đội Nhật có mặt ở Đông Dương từ năm 1941 đã đặc biệt quan tâm đến Đà Lạt và vùng cao nguyên này. Bằng chứng là hai bản đồ ở trên và tr. 149, với họ chúng cũng cho thấy những lợi thế về địa lý chiến lược và mang đến sự tiện nghi của một trạm nghỉ mát trên cao.

The Japanese army that was present in Indochina from 1941 paid particular attention to Đà Lạt and its region. As these two maps demonstrate, above and p. 149, the area had geostrategic advantages and provided the comforts of a hill station.



■ Cartes extérieures au territoire japonais réalisées par l'Armée japonaise : n°18 gauche / Indochine française / 1:500000 / Nha-Trang / 1945 [CAAS]
 Bản đồ của khu vực bên ngoài lãnh thổ Nhật Bản do Quân đội Nhật Bản trước đây lập: số 18 Trái / Đông Dương thuộc Pháp / 1:500000 / Nha-Trang / 1945
 Maps of the Areas outside the Japanese Territory Prepared by Former Japanese Army: n° 18 Left / French Indochina / 1:500000 / Nha-Trang / 1945

Đà Lạt was a summer capital but became a permanent capital under Decoux. When the Đà Lạt Conference was organised in 1946, it became an illusory Indochinese federal capital that was better linked to the rest of the country. Whatever its political implications, the event reinforced international media coverage of the city. Then in 1949, Bảo Đại made it a point to settle there when he returned to reign over Viet Nam and the territories of the Southern Highlands, which was “crown domain” and came directly under his authority.

In November 1950, Trần Đình Quê became the first Vietnamese mayor of the city. One month later, the province of Lâm Đồng was created and communal areas consequently grew in size. The city became home to new military infrastructures (School for the children of Eurasian troops,



■ Carte routière de l'Indochine, 1950 [ANOM 2PL 835]
 Bản đồ đường bộ Đông Dương, 1950
 Road map of Indochina, 1950

École interarmes founded in 1950) and interprovincial and national organizations. The 1950s marked the transition of Đà Lạt from a colonial city to a Vietnamese municipality to which power was gradually transferred until the administration was again reorganised from 1955 under Ngô Đình Diệm's presidency.

During this period, efforts were focused on the completion of previous projects rather than on new constructions. The city could boast many prestigious buildings that were symbols of power, the most prestigious among these being the former palace of the Governor General (built between 1933 and 1937) where Decoux worked for half of the year, and the second villa of the Emperor of Annam under construction since 1938.

ISBN 4-9902638-1-2

立教大学所蔵

外邦図目録

GAIHOZU

Maps of the Areas outside the Japanese Territory Prepared by Former Japanese Army
in the Possession of Rikkyo University

立教大学アジア地域研究所

Centre for Asian Area Studies, Rikkyo University

2014

立教大学所蔵 外邦図目録

2014年2月20日発行

発行 立教大学アジア地域研究所

〒171-8501 豊島区西池袋3-34-1

ISBN 4-9902638-1-2

欄	No.	地域名等	記号	図幅名	縮尺	緯度				経度				縦	横	大きさ	色	測量機関	測量時期	製版・印刷機関	製版時期	発行時期	枚数	備考
						緯	度	分	秒	経	度	分	秒											
1-2	1	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 1号	MA-LI-PO	1:100,000								78.5cm	54.5cm	中	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1905~06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	2	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 2号	YEN-MINH(イエン・ミン)	1:100,000								63cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1904~05年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年9月製版	昭和15年9月発行	1		
1-2	3	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 5号	PHONG-THO	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局	1910~28年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	4	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 6号	PA-KHA	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1905~06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	5	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 7号	HA-GIANG	1:100,000								63cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1905~06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	6	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 8号	BAO-LAC	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1904~13年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	7	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 9号	CAO-BANG	1:100,000								68.5cm	85.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1904~05年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	8	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 10号	HA-LANG	1:100,000								79cm	54.5cm	中	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1905~06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	9	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 14号	LAI-CHAU	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局	1926~28年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	10	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 15号	LAO-KAY	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1905~06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	11	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 16号	LUC-AN-CHAU	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局	1906~07年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	12	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 17号	BAC-KAN	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1906~07年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	13	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 18号	THAT-KHE	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1904~06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	14	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 19号	LOUNG-TCHEOU	1:100,000								72cm	47cm	中	5色(黒・青・緑・茶・赤)	インドシナ総督府地理局	1940年調製	参謀本部	昭和18年製版		1		
1-2	15	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 23号	LUAN-CHAU	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1897年印刷	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	16	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 24号	TU-LE	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1901~08年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	17	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 25号	YEN-BAY	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局	1907~08年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	18	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 26号	TUYEN-QUANG	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1906~07年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	19	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 27号	PHO-BINH-GIA	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1905~06年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	20	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 28号	LANG-SON	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局	1903~29年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	21	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 29号	BA-XA	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1903~05年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	22	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 35号	SON-LA	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1908~09年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	23	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 37号	VIET-TRI	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1904~07年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	24	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 38号	BAC-NINH	1:100,000								63cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1902~35年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	25	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 39号	AN-CHAU	1:100,000								63.5cm	85.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1903~34年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	26	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 40号	MON-CAY	1:100,000								66.5cm	95.5cm	大	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局	1903~30年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	27	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 46号	MUONG-HET	1:100,000								79cm	54cm	中	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局		陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	28	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 47号	VAN-YEN	1:100,000								63.5cm	88cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1908~09年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	29	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 49号	HANOI	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1935年印刷	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	30	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 50号	HAI-PHONG	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局	1903~25年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	31	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 51号	KE-BAO	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1902~03年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1	1925年改訂版	
1-2	32	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 59号	MAI-CHAU	1:100,000								63.5cm	88cm	大	2色(黒・青)	インドシナ総督府地理局	1897年印刷	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	33	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 60号	PHU-NHO-QUAN(フー・ノー・クワン)	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局	1908~09年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	34	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 61号	NAM-DINH	1:100,000								63cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1910~23年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	35	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 62号	HON-DAU	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局	1904~05年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	36	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 71号	THANH-HOA	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1903~10年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	37	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 72号	PHAT-DIEM	1:100,000								63.5cm	87.5cm	大	3色(黒・青・緑)	インドシナ総督府地理局	1935年	陸地測量部・参謀本部	昭和15年6月製版	昭和15年6月発行	1		
1-2	38	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 76号	MUONG-SOUI	1:100,000								63cm	85cm	中	4色(黒・青・緑・茶)	インドシナ総督府地理局	1903~32年	参謀本部	昭和18年製版		1	1933年調製	
1-2	39	仏領インドシナ	10万分の1仏領インドシナ 77号	PLAINE DES JARRES	1:100,000								63cm	84.5cm	中	5色(黒・青・緑・茶・赤)	インドシナ総督府地理局	1903~14年	参謀本部	昭和18年製版		1	1927年調製	

立教大学アジア地域研究所

なしまあ

親しみ深きアジア
— Accessible Asia —



特集
インド洋

先人の知恵に学ぶ防災—インドネシア・シムル島およびニアス島の事例—／高藤洋子
海と民話と高台と—2004年インド洋津波を回避した海の民モーケンの事例—／鈴木佑記 タイ国タクパー郡バーナムケムのコミュニティ防災／西田昌之
わが国における津波伝承としての石碑を問い直す／前林清和 防災における文化の役割-国際防災協力と災害文化の醸成-コメント／五十嵐暁郎
外洋と内ウミをむすぶ—インドのバックウォーター社会—／重松伸司
モルディブ—インド洋の群島国家—／執行一利

川野美砂子 上田信 岩田晋典 豊田三佳 野中健一
藤川美代子 守田正志 栗田和明 大塚直樹

No.04 2014

な じ ま あ
親しみ深きアジア
— Accessible Asia —

特集／インド洋

「防災における文化の役割」—国際防災協力と災害文化の醸成—

- 先人の知恵に学ぶ防災—インドネシア・シムル島およびニアス島の事例—／高藤洋子 …… 4
海と民話と高台と—2004年インド洋津波を回避した海の民モーケンの事例—／鈴木佑記 …… 6
タイ国タクワパー郡バーナムケムのコミュニティ防災／西田昌之 …… 7
わが国における津波伝承としての石碑を問い直す／前林清和 …… 8
防災における文化の役割—国際防災協力と災害文化の醸成—<コメント>／五十嵐暁郎 …… 8
外洋と内ウミをむすぶ—インドのバックウォーター社会—／重松伸司 …… 9
モルディブ—インド洋の群島国家—／執行一利 …… 11

論考

- ジャーラムと記憶の反乱—ケララ・イスラームの民衆運動 1836～1921年—／川野美砂子 …… 13

外邦図コレクション

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

- 21世紀海域学の創成—「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ—／上田信 …… 16

教壇から

- オンデマンド授業（全学共通カリキュラム科目）—茶・虎そして人—東ユーラシアの生態環境史—／上田信 …… 18
モノログの向こう側を目指して—「多文化の世界」を担当した経験から—／岩田晋典 …… 19

アジ研の本棚 -Book review-

- 『エコツーリズムの民族誌—北タイ山地民カレンの生活世界』／豊田三佳 …… 20
『種子は万人のもの—在来作物を受け継ぐ人々』／野中健一 …… 21

研究員紹介

- 藤川美代子／守田正志 …… 22

フィールドから

- タンザニア人の国外での活動—『アジアで出会ったアフリカ人』外伝—／栗田和明 …… 24

アジ研的・レストラン探訪

- ネパール味家「スクティ」／大塚直樹 …… 27
編集後記／世界のおじさん・おばさん／細井尚子 …… 28

●「なじまあ」とは

身近なアジア、親しみあるアジア、行きやすいアジア。「親しみ深い」というコンセプトを一言でいうと「なじみ」。「アジアになじむ」という意味をこめて、日本語で「なじまあ」というタイトルを思いつきました。NAJIMIにASIAをかけています。「～まあ」のいい方で「アジアになじもうよ」という勧誘の意も表しています。

表紙写真／南インド・ケララ州、マラバル沿岸コジコードで、買い手待つダウ船／撮影：重松伸司
オカに上がった巨鯨をおもわせます。十数メートルの船上に竹製梯子をよじ上って見学、はるか西にアラビア海の荒波が輝いていました。

右ページ写真／インドネシア・北スマトラ州ニアス島／撮影：高藤洋子

2004年12月に発生したスマトラ沖地震に伴う隆起により、珊瑚礁や砂浜が海面上に姿を現し形成された離水海岸。大自然の驚異に目を見張り畏敬の念を抱く。海岸線の変化により、サーフィンをする若者たちでにぎわっていた海岸も今は寄せてはひく波音だけが聞こえてくる。南国の陽光を受けて波はキラキラと光っていた。

外邦図
コレクション
④

私立大学
戦略的研究基盤
形成支援事業

「南洋」から南シナ海・インド洋・太平洋の現代的ビジョンへ
21世紀海域学の創成

上田 信

アジア地域研究所では、前身であるアジア地域総合研究所から引き継いだ外邦図の整理を、2010年に国土地理協会研究助成を得て整理を進め、その概要を明らかにしてきました。次のステップに進むため、2013年度の文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」(2013~15年度)に申請したところ、採択されるにいたしました。

本研究が収蔵する外邦図は、東南アジアを中心に、かつて「南洋」と呼ばれた地域の地図のコレクションとなっています。その特色を活かし、研究プロジェクトのテーマを「海域学の創成」としました。

近年、アジアの海域に関する関心が高まっています。歴史学においては、桃木至朗編『海域アジア史研究入門』(岩波書店、2008年)をはじめ、多くの著作の刊行が相次いでいます。政治学の領域では、中国が掲げた「海洋強国」路線が契機となる海洋での政治的な緊張の高まりに応じ、論議が交わされています。

「海域」は1つの学界では扱いきれない多様な側面を持っています。学際的に海を眺める視点は、しかし、まだ確立されているとはいえません。本プロジェクトは、外邦図という本研究が有する資産に基づき、学際的、かつ未来志向の「海域学」の創成を目指します。

以下、申請のために作成した構想調書ならびにテーマ調書のなかから、本事業の概要を示す箇所を抜粋します。

☆☆☆

【研究目的】海域をいかに認識するか。どのようなビジョンを描き出すか。技術革新や社会変化にともなう、海域についての地理的・空間的な把握も変遷してきた。さらに、グローバル化の加速する今日、島の領有権問題、大津波などの自然災害、開発や観光による環境破壊など、海域をめぐる課題が噴出している。本研究は、日本と深い繋がりのある南シナ海・インド洋・太平洋に焦点をあて、多角的かつ学際的な21世紀海域学の創成を目的とする。

南シナ海域、インド洋ならびに太平洋海域は、かつて「南洋」と呼ばれた。1940年代に日本が南進政策を進めるなかで、「南洋」の情報を収集する必要から、当該海域でヨーロッパ植民地宗主国が作製した地図をもとに、日本陸軍は精度の高い外邦図(日本国内の地図に対して国外の地図の総称)を作製した。この「南洋」外邦図は、当該地域の地図の歴史において、測量に基づく全体的な地図である点で、画期的な意味を持っている。

外邦図には、当該海域で開発が本格化する前の原風景が記されている。本研究プロジェクトは、外邦図を歴史的過去から連続する一断面として、1940年代から現在、そして未来へと展開する起点として位置づけ、本研究の所員・特任研究員の専攻を活かして学際的研究を進め、さらに学外の研究者を迎え、21世紀を見据えた海域学の創成を目指すものである。



図1 立教大学外邦図インデックスマップ



図2 ジャコトラ(17世紀初頭) 出典: Recueil des voyages qui ont servi à l'établissement et au progrès de la Compagnie des Indes orientales, formée dans les Provinces-Unies des Pays-Bas. (1725)

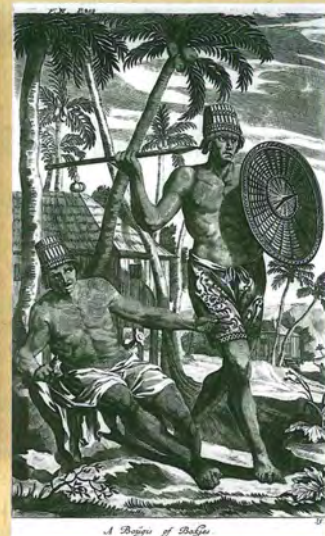


図3 プギス人(1660年代後半) 出典: A collection of voyages and travels. (1744)

【意義】第一の意義は、体系的な地理情報の収集と解析である。立教大学所蔵の「南洋」外邦図を基礎に、膨大な歴史的情報を地理情報システム(GIS)によって結びつけ、デジタル画像や解析したデータを公開する。

第二の意義は、海域認識やそのビジョンを捉えるための知の枠組みを開拓することである。アジア研究に携わる専門家を核に、海上交易の歴史、海上民・沿海民の文化、海洋の権力政治、自然と人間の交差する観光という4つのテーマを掘り下げ、それらの学際的な比較と総合の中から方法論としての海域学を構想する。

【研究内容】「南洋」外邦図を一層のプラットフォームとして、歴史、文化、政治、観光という4つの観点からチームを編成して研究を進める。各チームの研究内容は以下の通りである。1. 統括: 外邦図のデジタル化、データベース化と共に情報の解析を行う。また、チーム間の連携を図り、理論的・実証的な知見を学際的に統合した海域学の創成を試みる。2. 歴史学チーム: 歴史的過去から外邦図にいたる景観の変化などを跡づけながら研究を進める。3. 文化学チーム: 各海域の文化や民族学などの知見を集約する。4. 政治学チーム: 海洋の国際政治・安全保障

などの分析を進め、過去の地図と現在の海域図を比較検証する。5. 観光学チーム: 海域における客船の航路と観光地との関係などを分析するとともに、観光案内・地図コレクションの構築を目指す。チーム横断的・学際的なテーマとして、①海域秩序の形成と変容、②海域をめぐる人の移動、③津波などの自然災害、④人の安全保障という、4つの柱を立てる。

また、グループ全体を南シナ海、インド洋、太平洋の各ユニットに編成する。研究分野を単位とするチームと海域を単位とするユニットが有機的に連携し、海域学の創成を目指す。

【期待される成果】①アジア地域研究所が所蔵する「南洋」外邦図という貴重なコレクションをネット上に公開し、学内外の研究者の利用に資する。②当該海域に関する歴史・民族学文献、海事関係文献、観光案内など多様な情報を、「南洋」外邦図をプラットフォームとしてGISにより結びつけ、海域学を創成する研究環境を整えることができる。

③当該海域における調査を通して、現地研究者との国際学術交流を推進させることができる。

④大学院生を本研究プロジェクトに参画させ、海域学の学際的視座を獲得させる

ことができ、本分野の若手研究者育成に貢献することができる。

⑤本プロジェクトで得られた知見は、学術論文、公開講演会、国際シンポジウム、学術レポジトリーなどの媒介を経て公開していく。

【研究メンバー】統括: 上田信^{*1}、大塚直樹^{*2}、李善愛(宮崎公立大学教授)。歴史学チーム: 弘末雅士^{*1}、吉原和男^{*2}、重松伸司(追手門学院大学名誉教授)、太田淳(広島大学大学院准教授)。政治学チーム: 竹中千春^{*1}、堀本武功(京都大学大学院特任教授)、竹内幸史(岐阜女子大学客員教授)、中溝和弥(京都大学大学院准教授)。文化学チーム: 豊田由貴夫^{*1}、栗田和明^{*1}、舩谷鋭^{*1}、高藤洋子^{*2}。観光学チーム: 大橋健一^{*1}、豊田三佳^{*1}。

(*1) = 本研究所所員、*2) = 本研究所特任研究員

上田 信(うへだ・まこと)

立教大学文学部教授
東京大学大学院人文科学研究所(東洋史学専攻修士課程)修了。東京大学東洋文化研究所助手を経て立教大学文学部。現在は同教授。アジア地域研究所所長。専門は中国社会史・生態環境史。